

令和7年10月25日（土）、兵庫県西宮市において、関西慶應寮和会第27回定例懇談会が開催されました。辛うじて雨を免れ、計23名（会員20名、ご家族等3名）により実施に至りました。

＜出席者＞20名（会員のみ・敬称略）

寺沢(S38商) 山本(S38経) 相本(S41法) 堀(S47文) 松尾(S47経)
 三角(S49工) 青嶋(S52工) 松永(S58工) 松谷(S60理) 阪本(S61商)
 永末(S61経) 山岸(S61経) 竹崎(H02法) 井内(H04商)
 小早川(H10商) 早川(H10理) 兵藤(H10理) 四元(H13総) 宮崎(H16経)
 小野(R03文)

今回は西宮市を開催地とし、戦災・阪神・淡路大震災を経て昨年開場100周年を迎えた阪神甲子園球場と、震災で全壊してわずか3年後に復興させた白鹿記念酒造博物館を見学しました。

あの震災から本年で30年、今一度防災に対する意識を心に留めつつ、会員相互の親睦を図りました。

I 第1部 阪神甲子園球場スタジアムツアー (13:00~14:30)

阪神タイガースリーグ優勝の興奮も覚めやらぬ阪神甲子園球場。出席者は隣接する甲子園球場歴史館前に集合、まずはスタジアムツアーが始まりました。

阪神甲子園球場は、1924年の甲子（きのえね）年、全国中等学校優勝野球大会の開催を主目的とする大運道場として建設されました。日本で最初の大規模多目的野球場であり、日本の野球場の中で最大の収容人数約47,000人を誇ります。幾度もの改修を重ねつつ、薦が覆う外壁や黒土と天然芝のグラウンドは今も昔の姿を守り続けています。阪神・淡路大震災では、基礎部分には問題がなく、スタンドの一部に生じた亀裂・崩落の補修のみが行われました。

ガイドの方のご案内に従い、ビジター側ブルペン→ロッカー→ベンチ→グラウンドとツアーが進みました。特にグラウンドでは、スコアボードの歓迎メッセージを臨みつつ、一昨年夏の塾高さながらに球場に流れる塾歌に合わせて齊唱できました。



阪神甲子園球場まずはブルペンで



スコアボードに向かって塾歌齊唱



グラウンドでも塾旗とともに

歴史上の災いを耐え抜いた球場の設備・構造等についてのご説明を受けて、ツアーは終了、その後甲子園歴史館を見学しました。

同館は隣接する商業施設内のPLUSエリアと球場エリアとに分かれており、前者には阪神タイガースに関する展示や体験コンテンツが、後者には高校野球や球場自体に関する史料やパネル、映像が紹介されています。同館ご意向により展示品写真を掲載しかねるのが何とも残念ですが、猛虎軍団の英雄を思い起こす方、バックスクリーンで記念写真を撮られる方、母校の甲子園出場歴を探す方、出席の皆さんそれぞれの形で時間が許す限り貴重な機会を楽しみました。

II 第2部 白鹿記念酒造博物館見学（15:30～17:00）

阪神甲子園駅から阪神西宮駅まで電車移動を経、白鹿記念酒造博物館に向かいました。

①年次総会(15:30～15:50)

まず同館会議室をお借りして年次総会を開催。収支計算書（暫定）および次期役員(R8.1.1～R9.12.31)が全会一致のもと承認されました。

次期役員は次のとおりです。（いずれも再任）

会長 青嶋義晴(S52工) 会長補佐 西村元秀(S53商)
会計 松永 修 (S58工) 会計監査 井内達彦(H04商)

②白鹿記念酒造館見学（15:50～17:00）

西宮市は、六甲山と瀬戸内海に囲まれた酒所「灘五郷」東部に位置し、江戸時代より酒造りのみならず、公共事業や教育、芸術文化にも関わってきた土地です。ここに設立された同博物館は、歴史資料・美術品を所蔵し、桜の資料が展示されている記念館と、酒造りについて学ぶ酒造館に分かれており、今回はガイドの方のご案内のもと、後者を見学しました。

酒造りの映像・酒造り唄の視聴や酒造道具に触れた後には、「震災の記憶の部屋」を見ることができます。阪神・淡路大震災により、倒壊した旧酒蔵館の写真や、壊れた酒造道具などが展示されています。震災の恐怖を思い出すとともに、この被害から僅か3年後に同館を復興させた辰馬本家酒造の力強さに感嘆した次第です。



ベンチでもう一度全員集合



ご説明に傾聴



バックスクリーンから臨む全景



白鹿記念酒造博物館（酒ミュージアム）

Ⅲ 第3部 懇親会（17:10～19:10）

見学の後は、博物館に隣接する「白鹿クラシックス」で懇親会が開かれました。

青嶋会長からの挨拶、同市条例による日本酒での乾杯に続き、久々にご出席の小早川さん、早川さんより近況報告をいただきました。なんと早川さんのお嬢さまは宝塚歌劇団の「路花（みちか）める」さんとしてご活躍中とのこと。過去回に続き、歌劇に縁ある懇談会を開催できることを願いつつ、楽しい酒席を過ごしました。

Ⅳ 編集後記

今回見学した甲子園歴史館には野球殿堂表彰者のレリーフが展示されています。元塾長の小泉信三先生等塾関係者もいらっしゃる中、今回個人的に注目したのは、同館ならびに日本高等学校野球連盟顧問である佐山和夫さんでした。

塾員であり、かつ私にとっては高校の大先輩。地元英語教員から作家に転じ、野球関連のノンフィクションを多数著した一方、「春のセンバツ」21世紀枠創設に尽力された方です。

未だ精力的に活動中のご本人は御年89歳、その名著「史上最高の投手はだれか」を取り上げたニグロリーグの英雄サチャエル・ペイジは最後の公式登板を59歳で終えたとされています。

重なる年齢に抗い、研鑽と鍛錬を続ける。そして、できるならばその甲斐を次の世代に引き継ぐ。 こうした姿勢を見習ってまいりたいと思った次第です。

今回も皆さまお元気にお集りいただくことができました。次回もまた健康な姿で再会できるよう心より願っております。

今後も楽しく有意義な活動を続けていく所存ですので、これからもよろしくお願ひします。

以上



いつもながら世代を超えた楽しい宴席です



酒造道具の説明に聞き入る



震災で損壊した大桶

